世田谷村日記

石山修武

十月二七日

今朝は渡辺さんの家の地鎮祭。鉄骨工事の積算は私の計算と気仙沼の高橋工業の見積りがドンピシャと当り四百万円で決まり。直接渡辺さんと高橋に契約してもらう。基礎工事はまだ積算が大きくズレていてどこども契約ならず。四〇坪程度の住宅だから構造体に四百万というのはバランスがとれた値段だと思う。渡辺さんの家の建設およびそれに要した値段の全ては「開放系技術・デザイン・ノート」に順次公開してゆくので関心ある方はそちらを時々ヒットするのが良いだろう。世田谷村オリジナルの住宅にしてゆく。

昨日室内の長井が来て11月号「ハウスメーカーに騙されるな」大手住宅メーカー30社徹底比較　見せられた。オッ表紙イイネ。非常に良い。くらいに思ってたが、家に持ち帰って読んで仰天。良くここまでやった。アッパレである、ジャーナリズムの王道をいった。流石山本夏彦である。

十月二八日

山本夏彦さんに凄いことやりましたねと電話しようと思って自宅に電話するも留守。しかし「ハウスメーカーに騙されるな」この特集は事件と呼んでよいくらいのものだから私が凄いと思った感想は是非山本さんに伝えたい。

という事で山本夏彦さんに手紙を書いて送った。御老体一人に奮迅させて高見の見物は申し訳ないと考えたからだ。虎ノ門で御老体がおっ始めた喧嘩に高田馬場から堀部安兵衛が駆けつけようという図だね、これは。しかし、この強くない安兵衛虎ノ門まで辿り着けるかどうか。

杉並の渡辺さんの家の建設が始まるのだが、この小さな試みを情報としていかに拡張してゆくかに力を集中しなくてはならない。要するに渡辺さんの家は実体としてのハウスメーカー批判そのものであるからだ。批判の先には批判している対象そのものを超える何がしかが無ければならない。私の住宅道楽は更に拡張してできるだけ多くの人々の快楽へとつなげてゆく必要がある。

山本夏彦翁の獅子奮迅振りに我ながらだいぶ刺激されてしまった。渡辺さんの家の設計はその生活用品のできるだけの設計をも含むことになる。当然の事ながら椅子、テーブルの類。台所の様々な器具。照明。カーテンは世田谷オリジナルのカーテンがあるし、森正洋先生の力を貸りて食器もできるだろう。スプーン、ナイフ、フォークもやる。テラスのアウトドア用品もやる。その為の納屋のユニットも試みる。

住宅の依頼者たちにはこれ迄ずいぶんと失礼をした。住宅設計はもうやらないと宣言したりして、折角遠くから訪ねて下さった方々の依頼もお断りし続けた。が、ようやく住宅を沢山作る方法を手中にしつつあるので、それをやってみる。昔、ミサワホーム社長、三澤千代治氏が言ってた。「実ワ我社は設計事ム所なんですよ。」私も実ワそうだと知っていた。

イチローが国民栄誉賞をやんわりと断ったという話が新聞に報道されている。良い話が余りにも少な過ぎる今日この頃、これはチョッと良い話しだった。イチローはすでに国民という従来の国家の枠の存在から自由になり始めている特殊な能力を持ったス

ターだ。アメリカのメジャーリーグは明らかに日本のプロ野球の水準よりも力が上の世界で、イチローはそれを良く知り抜いていたからこそ、メジャーに抜けた。日本のプロ野球という二流の世界に安住できなかったからだ。彼のような野球選手の眼から見れば国民栄誉賞は王選手クラスがもらえば良い、何となくくすんだ、二流の賞にしか見えていないのだ。

ダイエーの王監督は自分のホームランの日本記録を外国人ローズに抜かせまいと、見苦しい敬遠を繰り返した。例え自分で直接指示を出していないとしても、監督としてそれを容認した。あの時、王は明らかにメジャーリーグでは通用しない二流の人になった。すなわちイチローは王をすでに抜いてしまったのだ。王選手が打ち立てたホームランの世界記録とは何だったのか。イチローはシアトルでそれを体できちんと知ることができたのだろう。だから、王のホームラン世界記録によって作られた賞の軽さ、嘘を感じているのだろう。イチローはアメリカの何がしかの賞を野心的に目指すべきだ。

夕方六時、藤森照信のＴＶ番組を見に下におりる。